## Q27 入学式・卒業式における配慮

### 〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

普段はもの静かなAちゃんです。教室には自分の居場所があり、信頼できる友だちもいるので、特別なことがない限り安定して過ごせるのですが、参観日や訪問日、入学式や卒業式といったセレモニーなど、通常の日課でない場合には、普段はあまりしない行動（手たたき・体を揺らす・奇声などの自己刺激行動）が出て、活動に参加できなくなります。場面が変わることで、緊張と不安がそのような行動をとらせてしまうようです。特に入学式や卒業式などは、会場となる体育館が広く人数が多いため、教室とは全く違った場となります。また、マイクを通した声は、話し手の位置と声の聞こえてくる方向（スピーカー）が一致しないため、主となる指導者への指示に従うことがむずかしくなります。

自閉症の子どもは、いつもと違う場面や状況で先の見通しがもちにくかったり、その理解の仕方が独特であったりするため、セレモニーで長時間静かにじっとしていることはかなりの苦痛となります。式が終わるまで待つということが難しく、そのため、自分の苦痛を表すサインの一つとして、自己刺激行動を行う場合もあります。また、協調運動に問題がある子どもの場合は、長時間立っていることが難しい点にも配慮する必要があります。

### 〈このような場合の支援　1〉

小学校２年生の知的障害を伴う自閉症の女児。体育館内でのレクリエーション行事では、緊張すればするほど体をゆらす、手をたたく、エコラリア（独り言）を発するなどの行動が見られます。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

① 信頼できる教師または友だちがそばについて、体の一部にふれる・手をつなぐなど、精神的に安定できるような対応をする。
② 補助指導者がそばについて、周囲の子どもと同じような行動の手本を示す。可能なら、個別に支援しながら模倣（ゲーム等の場合）させる。
③ 我慢を促すような言葉かけをする（もうちょっとよ、あと○分など）。
④ 時計やタイマーによって終了時刻の見通しを持たせる。
⑤ 必要ならその場から一時離れ、トイレ・手洗いをすることで気分転換をさせ、安定を図る。

### 〈このような場合の支援　2〉

小学校５年生の高機能自閉症の男児。学校行事や集会などが嫌いで、予定や計画を知らせるだけで拒否反応を示します。その子にとって非日常的なことや未経験のことは、先の見通しが持てない混沌とした状況のように感じられるようです。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

⑥ 事前に予定や計画を具体的に説明し、その子が納得できる参加方法を話し合うことも有効。
⑦ 可能なら「時間が少し延びるかもしれない」と予告をし、受け入れやすいものにする。
⑧ 予定時間が延びたら、その子に「○分遅れたから×時×分に終わります」と知らせる。
⑨ 信頼関係のできている友だちや、言って聞かせる事のできる友だちがそばについている。
⑩ 緊張や興奮しているような姿が見られたら、その場から離れ気分転換をさせることも有効。

## 学級担任の記録（メモ）

＜項目の利用回数＞

| 月／日 | 対象児の問題 | 教師やクラスの子どもの対応 | 対応後の対象児の様子 |
|---|---|---|---|
| | | | |